

B型肝炎母子感染予防におけるHBワクチン早期接種の効果  
(分担研究：B型肝炎母子感染防止対策の追跡調査および効果判定に関する研究)

田尻 仁、古座岩宏輔

【要約】B型肝炎母子感染予防におけるHBワクチン早期接種の有効性を検討するために5施設において共同研究を行なった。母親がHBe抗原陽性18例（早期接種7名）およびHBe抗原陰性40例（早期接種15名）ともHBs抗原陽性化例はなく、全例HBs抗体陽性である。しかし、早期接種を行なった22例中3名で3回のHBワクチン接種後もHBs抗体の上昇がみられず、追加接種を行なった。従来法で生後2か月からワクチン接種を開始した36例は全例が3回の接種後にHBs抗体の上昇が認められた。

【見出し語】B型肝炎、母子感染予防、早期接種

【研究方法】B型肝炎母子感染予防における早期接種の有効性を検討するために5施設（表1）において共同研究を行なった。予防には遺伝子組み換えHBワクチンを用い、予防措置および検査は平成6年度に報告したプロトコールに従って行った。A、Bの施設では早期接種を行い、C～Eの施設においては従来の厚生省方式の予防方法と検査を行い、早期接種のプロトコールの有効率と比較した。表1にそれぞれの施設における年間予定分娩数、妊婦のHBVキャリア率を1.4%とした時の予防対象となるベビー数、ならびに今回検討したベビー数を示した。

【結果】平成8年2月現在までの対象者数と成績を表1に示した。図は早期接種を行なったA、B施設での結果を示し、縦軸がHBs抗体価（国際

単位およびPHA法）、横軸が生後月数である。母親がHBe抗原陽性で早期接種を行った例は7例を追跡している。生後3か月までの追跡例が1例、生後6か月までが2例、生後9か月までが1例、生後12か月までが3例である。現時点では症例N.Y.で生後12か月時に4回目のHBワクチンの追加接種を行っており、症例Y.Y.では生後3か月までHBs抗体価が低下傾向にあったため、生後3.5か月時にHBIGの追加投与を行なった。母親がHBe抗原陰性で早期接種を行った例は15例あり、そのうち2例においてHBワクチンの追加接種を行なった（症例T.O.では生後4か月、6か月に、症例O.K.では生後6か月に）。一方、厚生省方式の乳児は全例で3回のワクチン接種後HBs抗体の上昇が認められ生後12か月まで観察し得た13例ではいずれもHBs抗体の陽性が持続している。

大阪大学医学部小児科

【考察】これまでの厚生省方式によるB型肝炎母子感染予防はB型肝炎キャリアの発生を減らすのに十分に有効であったと考えられる。今回、HBワクチン開始を生後2カ月から出生直後に早める予防方法の有効性を検討する目的で5施設で共同研究を行っている。この早期接種のメリットは、1)従来2回投与していたHBIGを1回に減らせる、2)従来のプロトコールよりも外来受診回数が減らせる、この2点が考えられる。平成6年9月から開始し、現在まで22例で早期接種の有効性を検討している。従来の厚生省方式で予防を行なった36例と比較すると、妊婦がHBe抗原陽性例（早期接種7名、厚生省方式11名）およびHBe抗原陰性例（早期接種15名、厚生省方

式25名）ともHBs抗原陽性化例はなく、全例HBs抗体陽性である。しかし早期接種施行例の中に3回のワクチン接種後もHBs抗体の上昇が認められず、追加接種を施行した例が3例（妊婦のHBe抗原陽性1名、HBe抗原陰性2名）みとめられており、早期接種を行う場合にはHBs抗体の獲得について嚴重に観察をする必要があると考えられた。

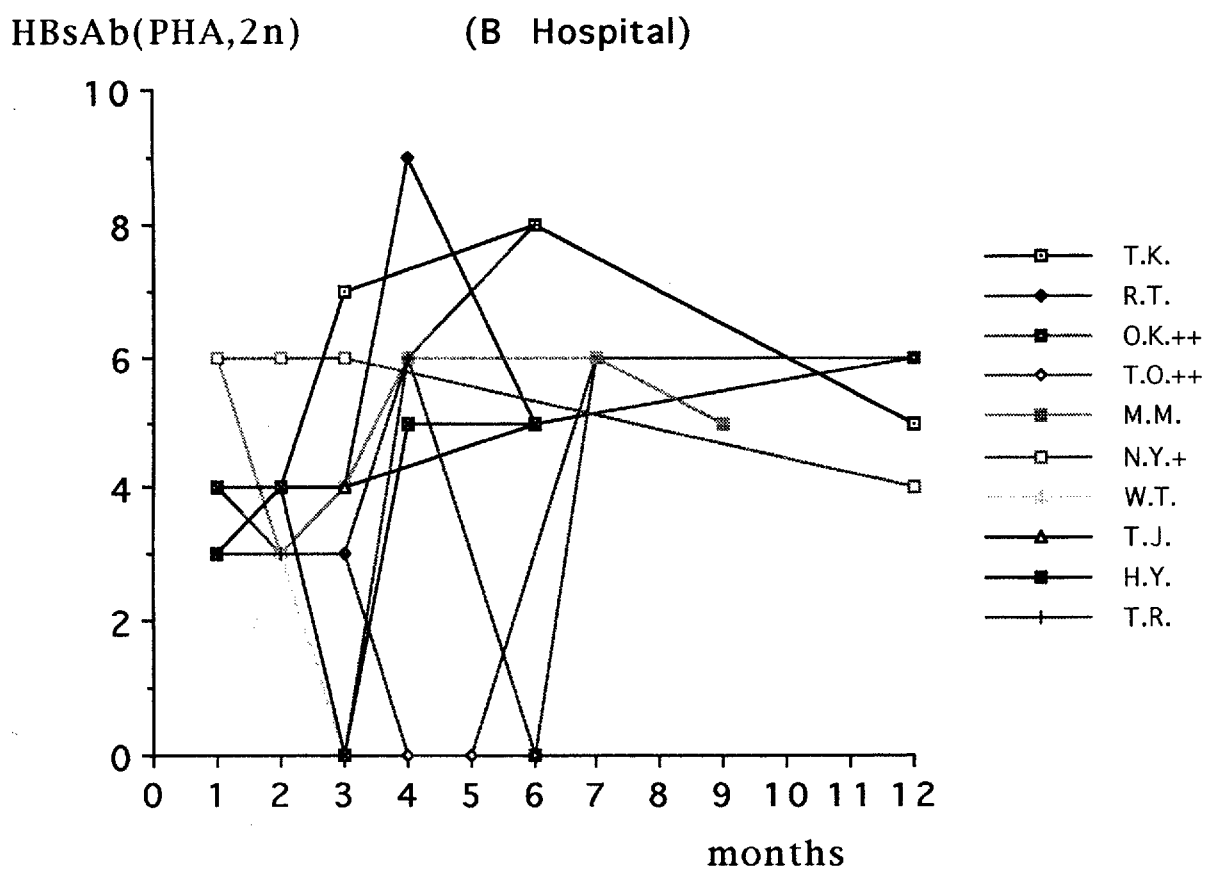
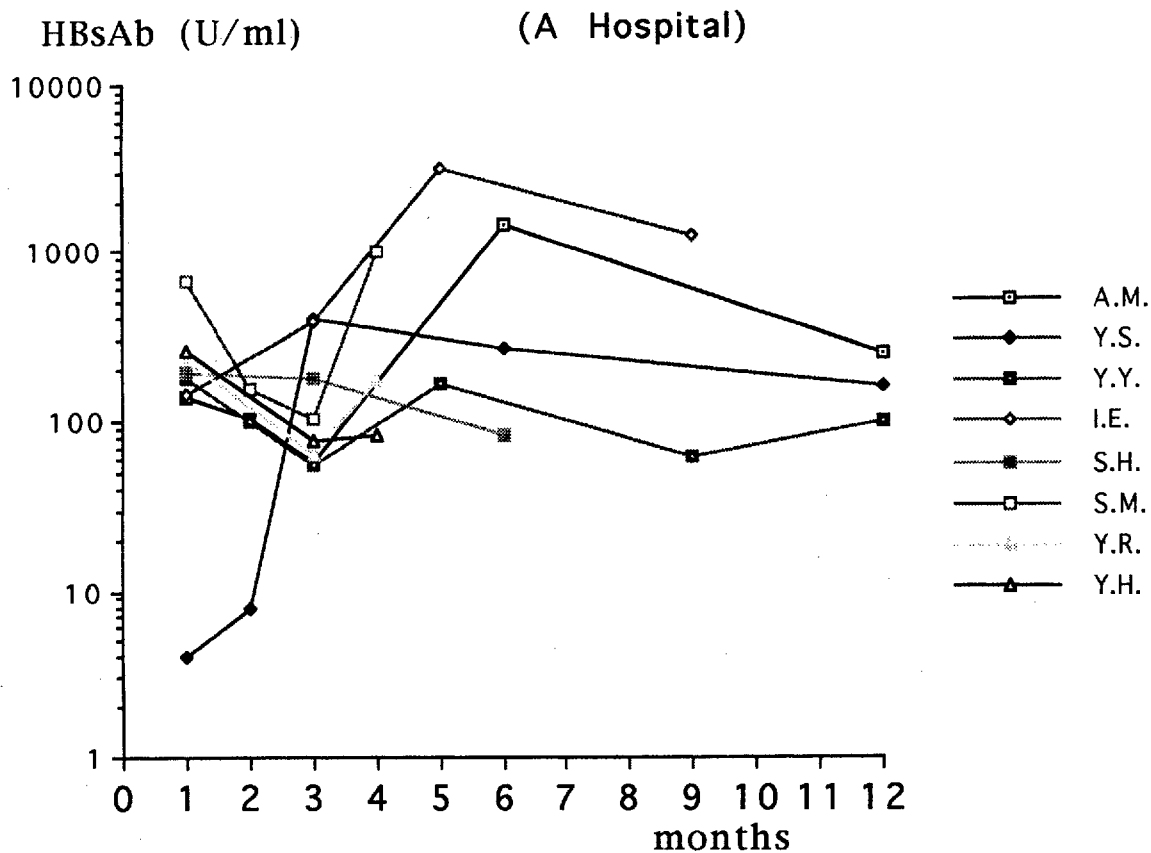
【文献】

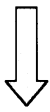
田尻 仁、古座岩宏輔：母子感染におけるHBワクチン早期接種の検討。厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」、平成6年度研究報告書、p476-478。

表1. B型肝炎母子感染予防実施症例

| 協力病院     | 年間分娩数<br>(予定) | HBsAg(+)   |        | 観察期間(月数) |    |    | HBs抗原<br>陽性化 | 追加<br>接種 |    |    |
|----------|---------------|------------|--------|----------|----|----|--------------|----------|----|----|
|          |               | 予防対象<br>実数 | eAg(+) | eAg(-)   | 4  | 6  |              |          | 12 |    |
| A (早期接種) | 400           | 6          | 8      | 1        | 7  | 8  | 5            | 3        | 0  | 0* |
| B (早期接種) | 1700          | 24         | 14     | 6        | 8  | 10 | 10           | 3        | 0  | 3  |
| -----    |               |            |        |          |    |    |              |          |    |    |
| C (従来法)  | 1700          | 24         | 13     | 5        | 8  | 13 | 13           | 9        | 0  | 0  |
| D (従来法)  | 400           | 6          | 8      | 2        | 6  | 4  | 3            | 1        | 0  | 0  |
| E (従来法)  | 1000          | 14         | 15     | 4        | 11 | 15 | 15           | 3        | 0  | 0  |
| 計        | 5200          | 74         | 58     | 18       | 40 | 50 | 46           | 19       | 0  | 3  |

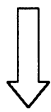
A：大阪大学医学部附属病院，B：大阪府立母子センター，C：淀川キリスト教病院  
D：近畿中央伊丹病院，E：愛染橋病院 (\*：一例でHBIGの二回目を投与した)





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】B型肝炎母子感染予防におけるHBワクチン早期接種の有効性を検討するために5施設において共同研究を行なった。母親がHBe抗原陽性18例(早期接種7名)およびHBe抗原陰性40例(早期接種15名)ともHBs抗原陽性化例はなく、全例HBs抗体陽性である。しかし、早期接種を行なった22例中3名で3回のHBワクチン接種後もHBs抗体の上昇がみられず、追加接種を行なった。従来法で生後2ヵ月からワクチン接種を開始した36例は全例が3回の接種後にHBs抗体の上昇が認められた。